

みとりの様子を写真絵本で紹介

大津市のフォトジャーナリスト国森康弘さん

(三七)が、お年寄りの最期を家族がみとる現場を取材した写真絵本シリーズ「いのちつぐ」(全四巻、農山漁村文化協会)を出版しました。温かな人間関係に包まれた「幸せな死」がテーマだ。

国森さんは滋賀県東近江市

最期を迎えると願うお年寄りと、それを支える家族や医師らを長期に取

材。家族が大切な人の死と向き合う中で、命の重みを世代を超えて伝えていくドキュメンタリーを物語風に構成した。

第一巻「恋ちゃんはじめての看取り」(写真)は、大好きな曾祖母をみどり(じと)とった少女が、死を少しずつ理解しながら人の生きる力を学んでいく姿を写真と平易な文章で紹介。他巻も人々の絆が生み出すみとりの様子を伝えている。



あおはあちゃんの
死と向きあう

いのちつぐ
みとりじと

江市の山間部で、自宅で最期を迎えると願うお年寄りと、それを支える家族や医師らを長期に多くの人に知つてもらいたい」と話している。各巻A4判三十二ページ、千八百九十九円。問い合わせ先は同協会(電03(3585)1141)。